

●市ケ尾ユースプロジェクトとは

「市ケ尾ユースプロジェクト」(中高生と地域人材によるまちの未来づくりプログラム)とは、豊かな経験を持つ大人と中高生が力を合わせ、まちづくりの課題やまちの魅力アップに取り組むことで、多世代交流によるこども・若者の育成支援を行う活動です。

横浜市青葉区こども家庭支援課の事業として、市ケ尾高校、市ケ尾中学校、NPO まちと学校のみらいなど多様な主体が協力して2017年度からスタートしました。

具体的には、のちほど紹介する5つのチームが生まれ、青葉区の魅力アップに向けた活動を展開しました。

●このプロジェクトを企画した背景には、2つの“もったいない”があります。

1. 青葉区にはさまざまな経験をもつ人材がいるにもかかわらず、地域の活動に参画できていない人も多い。
(例：忙しいビジネスパーソンにとっては帰って寝るだけの地域になっているのでは、という問題意識。)
2. 中高生のもつ力、ポテンシャルは高いにもかかわらず、地域や実社会との接点をもつ教育活動が多く行われているわけではない。
(例：「こんな社会課題に取り組みたいから、この学校・学部を進路先を選ぶ」と言える中高生は少ない)

●市ケ尾ユースプロジェクトが大切にしていること

1. 簡単な正解はない、ホンモノと出会う。
 - ・学校の勉強やテストでは、たいてい答えはひとつと決まっています。
 - ・しかし、地域課題や社会の現実はずがいます。
大人だって、どうしたらよいか分からず、ときには悩みながらチャレンジしています。
 - ・中高生たちには今回、社会のそんなリアルを見せ、大人たちと一緒に考えます。
2. 行動する、やってみる。
 - ・大人たちは会議が大好きです。でも、会議だけ続けても現実が変わりません。
 - ・プロジェクトでは限られた時間のなかではありますが、実践することを重視します。



人と人のつながりがしっかりしている絆の強い地域ほど、住民の健康状態がよく、長寿で、子どもの学力も高いというのは明確に証明されている事実だそうです。また、地域に何らかのかかわりを持ち、少しでも自分以外の他者をサポートしていくことが、ご自身の健康にも直接つながるといこともはっきりしています。

「百匹目の猿」という現象がわれています。構成員の一部が同じ行動を起こし、それが少しずつでも広まっていくと、ある段階を超えたときに飛躍的に拡散普及していくそうです。

市ケ尾ユースプロジェクトがその起爆剤となり、青葉全体にこういった活動が広がっていくことを期待しています。

今回のプロジェクトでは、子どもも大人もみんながよく考え、とても気持ちよく活動できたのではないかと思います。

みなさん本当にお疲れ様でした。
これからも一緒に頑張りましょう。 青葉区長 小池恭一



地域の課題を中高生と一緒に考え、解決策を実践するという目的に賛同して参加しました。数回のワークショップを重ねるうちに、子どもたちは積極的に発言し自主的に活動するようになり目に見えて変化が見られます。大人たちは経験・知見を生かしサポート役に徹しています。子どもたちは過去のしがらみがなく未来志向の発想をします。実際子どもたちから教えられることも多いです。

未来を担う子どもたち、経験のある大人たちおよび行政、学校と一緒に地域ぐるみの人材育成と地域力の向上を目指したプラットフォームになっていければと思います。

市ケ尾ユースプロジェクト サポートリーダー 関根秀昭

この取組をとおして、中高生は私たち大人の予想をはるかに超えて成長しました。まさに「経験」は人を成長させます。考える力、伝える力、創造する力、仲間とともに力を合わせてやり抜く力などの資質・能力の向上はもとより、最も注目したいのは「意識」の変容です。生徒たちは、地域への愛着、貢献、さらに社会参画意識を高めています。それを可能としたのは、地域の経験豊かなサポーターの方々との協働という「経験」の質の高さにあります。

本校は、コミュニティ・スクールとして生徒の社会参画意識の育成をテーマに取組を進めています。地域は学びのフィールド、高校生の力は地域の資源でもあります。様々な活動をおして自分たちが動くことで何かが変わるという確かな手ごたえを持ち、将来、社会で大いに活躍してほしいと考えています。

神奈川県立市ケ尾高等学校 校長 増淵広美



今後必要となる「主体的・対話的で深い学び」を進め、「協働的問題解決力」を身に付けるためには、地域の多様な人材と協働的に課題に取り組むことが効果的です。本校の重点取組である。ESD(持続可能な開発のための教育)と通じるこの取組は、次世代を担う生徒にとって大変有意義だと考えています。

横浜市立市ケ尾中学校 校長 坂村晃